

2021年3月期 第2四半期決算説明

2020年11月16日

テクノホライゾン株式会社
代表取締役社長 野村拡張

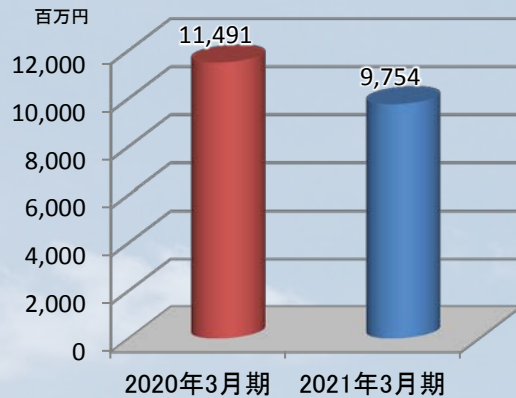
目次

- I. 2021年3月期 第2四半期決算概況
- II. 2021年3月期 通期業績予想
- III. 成長戦略
- IV. 第2四半期トピックス

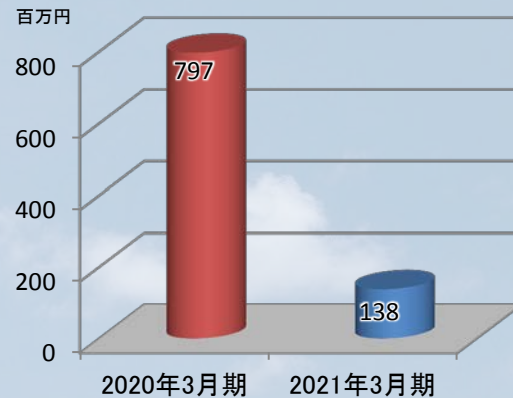
I. 2021年3月期 第2四半期決算概況

2021年3月期 第2四半期決算 ハイライト (1)

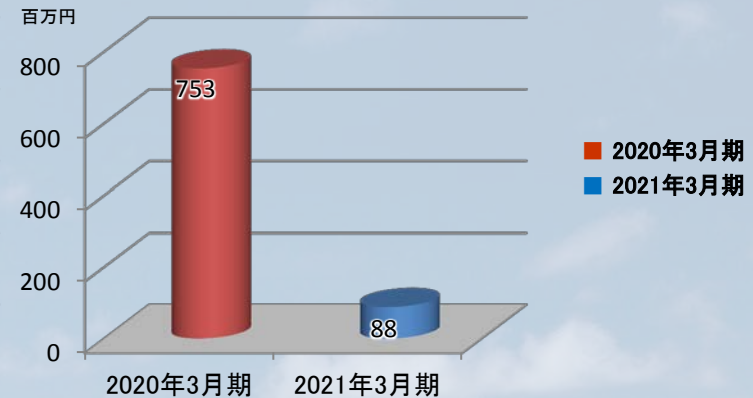
売上高



営業利益



経常利益



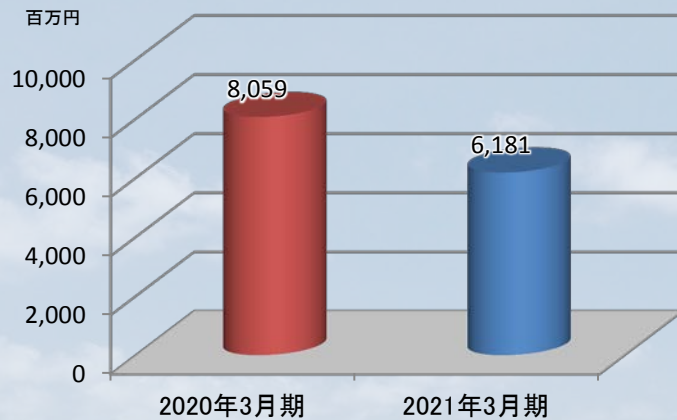
グループ連結(単位:百万円)	2020年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	対前年同期
売上高	11,491	9,754	1,737百万円減(15.1%減)
営業利益	797	138	658百万円減(82.6%減)
経常利益	753	88	665百万円減(88.3%減)
親会社株主に帰属する四半期純利益	764	34	729百万円減(95.5%減)

- ・ 昨年は2Qに貢献した光学事業が、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で下期にシフト。
- ・ 結果、売上高は減収、利益についても減益。
- ・ 下期以降の業績に貢献する見込み。

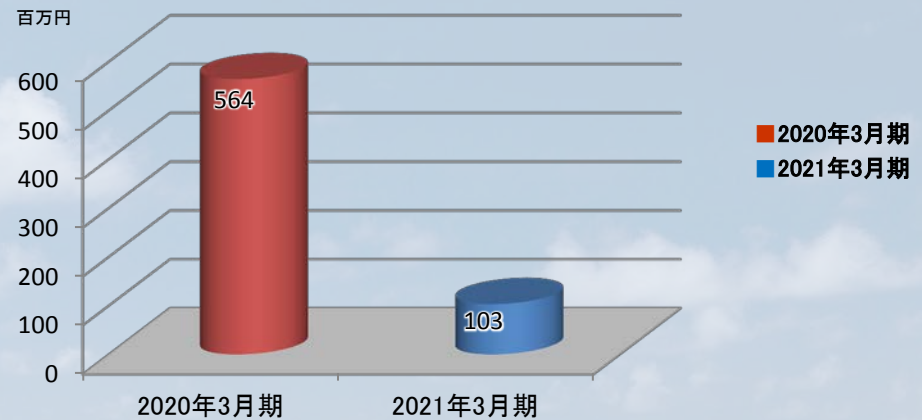
2021年3月期 第2四半期決算 ハイライト (2)

【事業セグメント別】 光学事業

売上高



営業利益



事業別売上高(単位:百万円)		2020年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	対前年同期
光学事業	売上高	8,059	6,181	1,878百万円減(23.3%減)
	営業利益	564	103	460百万円減(81.7%減)

注: 事業セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費等を除外しております。

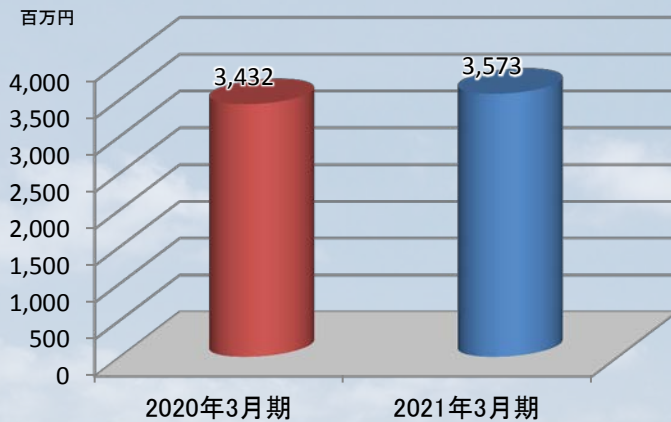
【光学事業】

- ・ 教育事業(書画カメラ、電子黒板)関連は、文部科学省主導によるICT機器の導入推進により市場は拡大するも、新型コロナウイルスの感染拡大で夏休みが短縮する等の影響を受け、電子黒板などの納入・設置工事が後ろ倒しになる。
⇒ 下期以降の業績に貢献する見込み。
- ・ M&A関連の一時費用を計上。

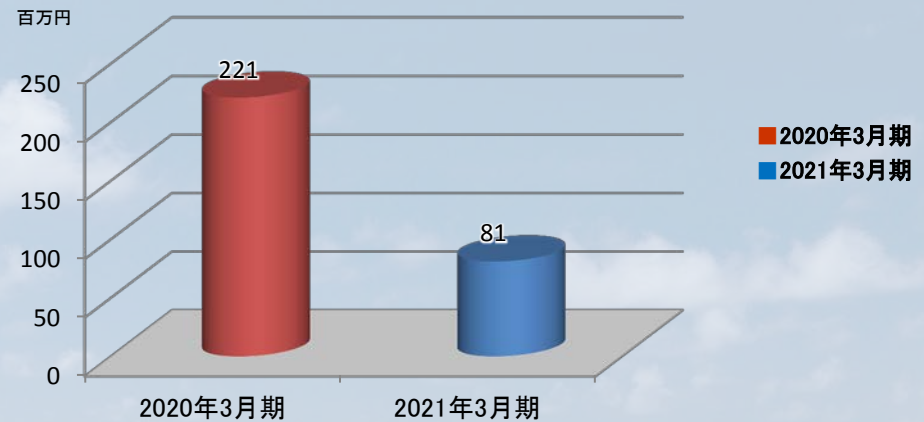
2021年3月期 第2四半期決算 ハイライト (3)

【事業セグメント別】 電子事業

売上高



営業利益



事業別売上高(単位:百万円)		2020年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	対前年同期
電子事業	売上高	3,432	3,573	140百万円増(4.1 %増)
	営業利益	221	81	140百万円減(63.3%減)

注: 事業セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費等を除外しております。

【電子事業】

- ・ FA関連機器が、設備投資意欲が後退し市況が悪化するも、労働力不足から来る自動化・省力化ニーズは高く、前期並水準を維持。
- ・ 新型コロナウイルスにより一時的な工場稼働率の低下や出荷先送りにより、収益率が低下。
- ・ 但し、依然工場自動化のニーズは高く、特に画像を使った自動検査システムやITを使った工場データの見える化ニーズに依っていき。

2021年3月期 第2四半期決算 ハイライト (4)

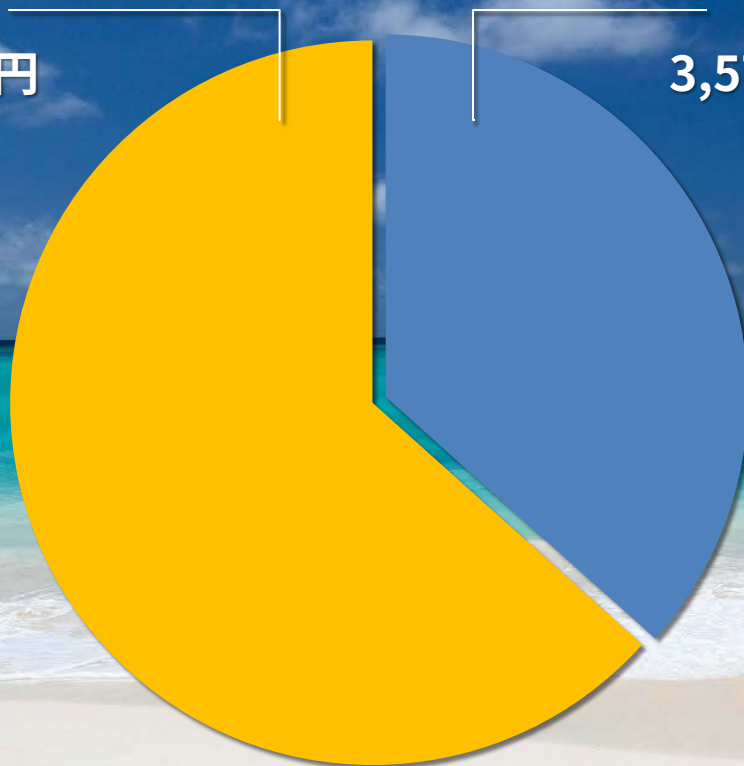
事業別売上高構成

2021年3月期 第2四半期

売上高 9,754百万円

光学事業
6,181百万円
63.37%

電子事業
3,573百万円
36.63%

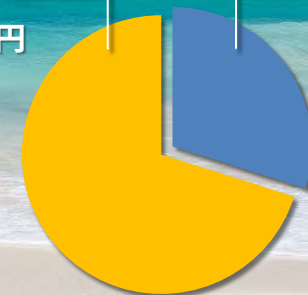


2020年3月期 第2四半期

売上高 11,491百万円

光学事業
8,059百万円
70.13%

電子事業
3,432百万円
29.87%



2021年3月期 第2四半期決算 ハイライト (5)

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間 (2020年9月30日)	増減
資産の部			
流動資産	14,508	17,598	3,090
固定資産	6,609	7,554	944
資産合計	21,117	25,152	4,034
負債の部			
流動負債	11,116	15,644	4,527
固定負債	2,540	2,268	△271
負債合計	13,656	17,912	4,255
純資産の部			
株主資本	7,067	6,899	△167
その他の包括利益累計額	393	340	△53
純資産合計	7,460	7,239	△221
負債純資産合計	21,117	25,152	4,034
自己資本比率	35.3%	28.8%	△6.5pt

(資産の部)

【流動資産】

- ・現金及び預金が618百万円、受取手形及び売掛金が693百万円、商品及び製品が405百万円、仕掛品が164百万円、原材料及び貯蔵品が445百万円増加

【固定資産】

- ・有形固定資産が48百万円、無形固定資産が575百万円、投資その他の資産が320百万円増加

(負債の部)

【流動負債】

- ・支払手形及び買掛金が508百万円、短期借入金が3,587百万円増加

【固定負債】

- ・長期借入金が210百万円減少

(純資産の部)

【純資産合計】

- ・利益剰余金が167百万円、為替換算調整勘定が56百万円減少

- ・光学事業に、買収したESCOの貸借対照表のみを連結。
 - ・電子事業に、買収したファインシステムの貸借対照表のみを連結。
- ⇒結果資産、負債が増加。

2021年3月期 第2四半期決算 ハイライト (6)

連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	前期 自 2019年4月1日 至 2019年9月30日	当期 自 2020年4月1日 至 2020年9月30日	増減
売上高	11,491	9,754	△1,737
売上原価	8,279	7,051	△1,227
売上総利益	3,212	2,703	△509
販売費及び一般管理費	2,415	2,564	149
営業利益	797	138	△658
営業外収益	38	31	△7
営業外費用	83	82	0
経常利益	753	88	△665
特別利益	231	89	△142
特別損失	1	3	1
税金等調整前四半期純利益	983	174	△809
法人税等	219	139	△79
四半期純利益	764	34	△729
親会社株主に帰属する四半期純利益	764	34	△729

【売上高】

- ・光学事業 6,181百万円(対前年1,878百万円減少)
- ・電子事業 3,573百万円(対前年140百万円増加)

【営業利益】

- ・光学事業 103百万円(対前年460百万円減少)
- ・電子事業 81百万円(対前年140百万円減少)
- ・調整額 △45百万円

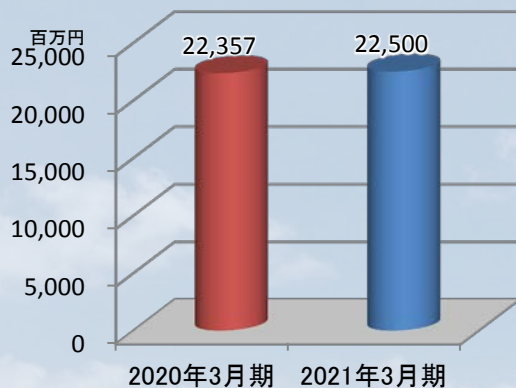
- ・金額の大きな特別損益は発生せず。
- ・法人税等は連結納税を適用せず。実効税率を合理的に見積り計上。

II. 2021年3月期 通期業績予想

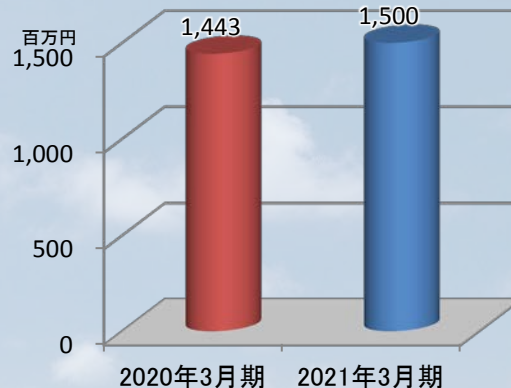
2021年3月期 通期業績予想

◆ 2020年5月15日の「2020年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想から変更はありません。

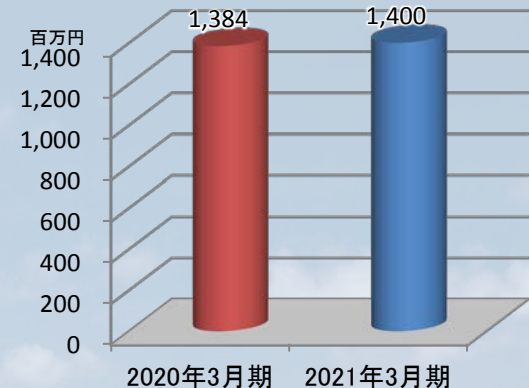
売上高



営業利益



経常利益



■ 2020年3月期
■ 2021年3月期

(単位: 百万円)	2020年3月期	2021年3月期	前年同期比
売上高	22,357	22,500	0.6%
営業利益	1,443	1,500	3.9%
経常利益	1,384	1,400	1.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,319	1,300	△1.5%

【下期の重点施策】

新型コロナウイルスの影響により設備予算の先送りはあるものの、IT化などのニーズは高まっており、通期ではほぼ前年並みに予想。

- ①教育 : ウィズコロナによる遠隔授業ニーズの取り込み。教育市場のノウハウをビジネス市場へ。
- ②F A : スマート工場の提案。経営管理ソフトの拡販。画像処理ソフトとのパッケージ販売。
- ③医療 : 睡眠見守りシステム『みまもり〜ふ』の販売促進。
- ④安全・生活 : 「通信型ドライブレコーダー」による、安全運転管理テレマティクスサービス企業への対応強化。

2021年3月期 通期業績達成のための事業戦略

教育市場

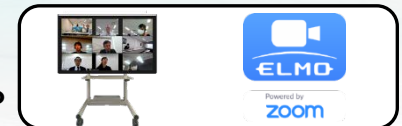
【学校】

- ✓ GIGAスクール構想による、自治体入札案件の早期情報収集及び仕様化。
⇒ 下期へのシフト案件の確実な取り込み。
- ✓ (電子黒板、書画カメラ) + 授業支援システム (クラウド版含む) の販売強化。



【企業】

- ✓ 企業向けITソリューション事業の事業企画部門を新設。
⇒ エルモの企業向けブランド『EBISS』を推進。
- ✓ Zoom社インテグレーションパートナー契約
⇒ オンラインツール“EZT”による遠隔コミュニケーションサービス開始。



【海外】

- ✓ ESCOとの事業シナジーを確立。



2021年3月期 通期業績達成のための事業戦略

FA市場

✓スマート工場の提案。経営管理ソフトの拡販。



工場担当者向け管理システム（タブレット コミュニケーター）



予算実績管理システム

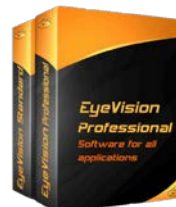


運用評価・監査支援ツール

✓ 画像処理ソフトとのパッケージ販売



FA PCパネコン



画像処理ソフト



画像入力ボード

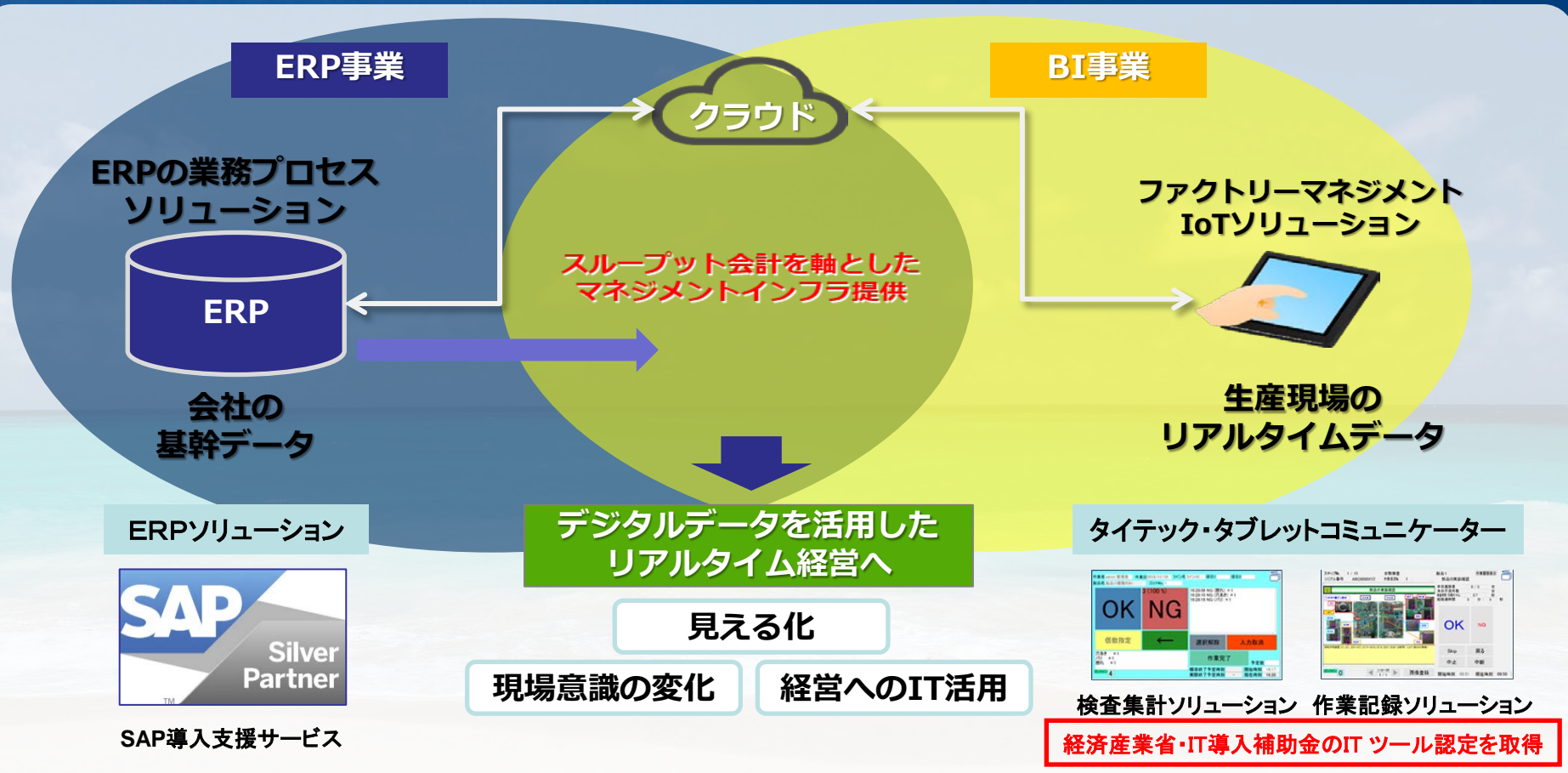


産業用カメラ

2021年3月期 通期業績達成のための事業戦略

FA市場

ERP（統合基幹業務）とBI（ビジネスインテリジェンス）の連携



2021年3月期 通期業績達成のための事業戦略

医療市場

✓ 睡眠見守りシステム『みまもり〜ふ』の販売促進

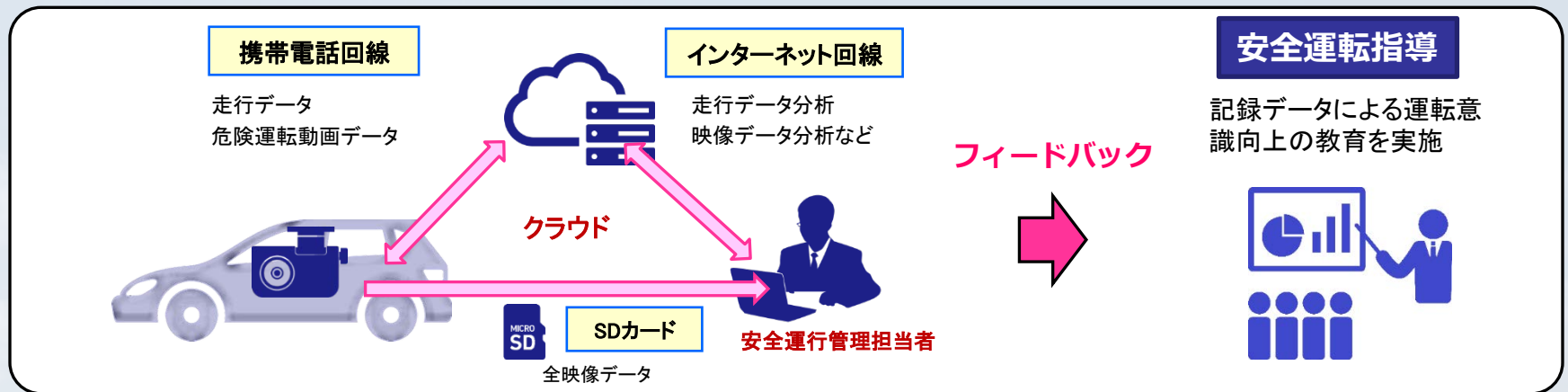


- バージョンアップによる機能の充実
- 他社システムとの連携による販売促進
- 展示会出展による介護施設等への直接営業
- 介護施設等へ直接訪問

2021年3月期 通期業績達成のための事業戦略

安全・生活市場

✓ 「通信型ドライブレコーダー」による、安全運転管理テレマティクスサービス企業への対応強化



✓ 光学リモート技術を用いたソリューション展開



✓ サーマルカメラの販売強化

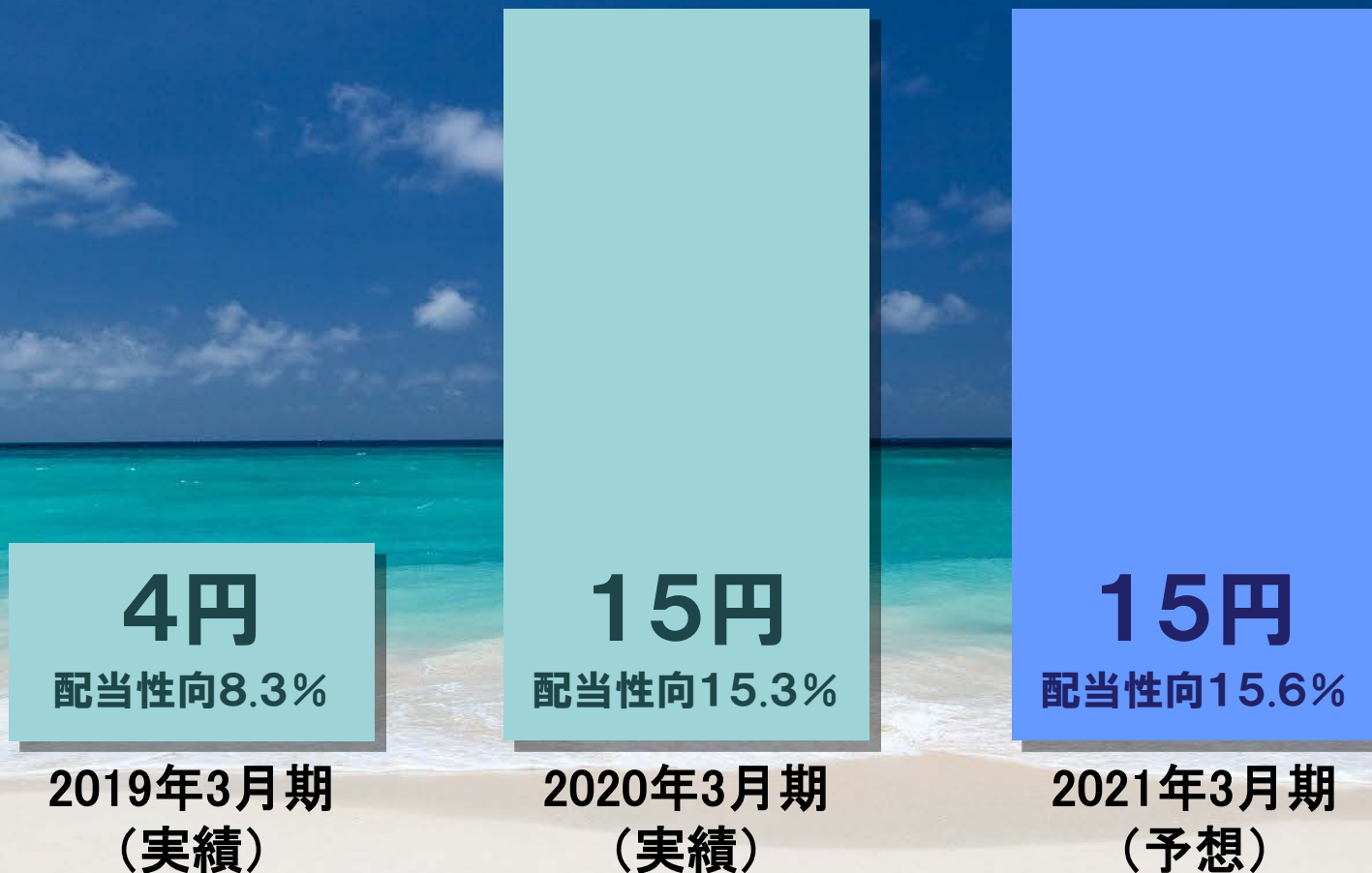
テクノホライゾン・サーマルカメラ

TECHNO HORIZON GROUP

	サーマルカメラ	サーマルカメラ (普及版)	A1認証証付きサーマルカメラ	サーマルカメラ監視システム
測温距離 (範囲)	2m~6m	2m~4m	0.3m~1.8m	1m~3m
最大同時検出人数	30人	15人	1人	2人
測温精度	±0.22℃	±0.3℃	±0.5℃	±0.5℃

2021年3月期 株主還元

年間配当予想 : 2021年3月期の配当は年間1株あたり15円



III. 成長戦略

成長戦略①：経営体制の強化に向けて

テクノホライゾン・ホールディングス株式会社は、2020年10月1日付で「テクノホライゾン株式会社（英語表記: TECHNO HORIZON CO., LTD.）」に社名変更いたしました。また、これに伴いコーポレートロゴも変更いたしました。



テクノホライゾングループは経営体制強化のため、2021年4月1日付で当社100%出資の連結子会社であるエルモ社、中日諏訪オプト電子及びタイテックの3社を、当社を存続会社として吸収合併を行い、持株会社から自ら事業を行う事業会社へと移行いたします。これに先行して社名変更を行い、新たなスタートを切りました。

成長戦略② : 今期の継続的な戦略

1. 新たな顧客価値の創造

- ・「ハードウェア」と「ソフトウェア」を融合した新製品・サービスの提供

2. マーケティング力の強化

- ・ 営業体制の強化
- ・ Withコロナ時代におけるSNSやメルマガの活用・推進

3. 生産性の向上

- ・ グループ全体最適を視野に入れた効率的生産体制の構築

4. グローバル化の推進

- ・ アジアの成長力を取り込み

5. CSR(企業の社会的責任)の推進

- ・ コンプライアンスの徹底、ステークホルダーへの積極的な情報開示

成長戦略③ : 買収による事業領域の拡大

積極的に事業買収 (M&A) を行い、事業領域を強化

教育

ELMO
CONNECTING MINDS

M&A

xSync

ESCO
EXCELLENCE DELIVERED

安全・生活

CHUNICHI SUWA
OptoElectronics

Finefit Design

M&A

ELMO K-GRANDE
CORPORATION

FA

TIETECH

M&A

MDT 株式会社 エムティテクノス

SHINKOH GIKEN

ITL

fine

MV

ITANZI

Knowledge Imaging Technology
KIT

BlueVision

ADS アド・サイエンス

医療

CHUNICHI SUWA
OptoElectronics

・買収先企業とのシナジー効果を出す。

IV. 第2四半期トピックス

トピックス : 教育市場の取り組み

国内事業

教室・会議室向け AVコントロールシステム CVAS PROGless (シーバス プログレス) 発売

大学の教室・企業の会議室などのディスプレイや電動スクリーン、プロジェクターや室内照明など、プレゼンテーション用オーディオ、ビジュアル機器を一括でコントロールし、利用促進を実現するAVコントロールシステム“CVAS PROGless”（オープン価格）を2020年10月1日から発売。



7 インチタッチパネル
EBISS-TPC07



小型 I/F ユニット
EBISS-IFBOX



操作卓への設置イメージ



環境が変わってもワンタッチで準備完了

トピックス : FA市場の取り組み ①

国内事業

工場現場担当者向けタブレットシステム
タイテック・タブレットコミュニケーター
「IoT 7つ道具」認定取得

タイテックの工場現場担当者向けタブレットシステム「タイテック・タブレットコミュニケーター」が、株式会社日本能率協会コンサルティング (JMAC) の「IoT 7つ道具」に認定されました。現場のさまざまなものをインターネットにつなげ、現場の状態を収集したリアルタイムデータを可視化・活用することにより、工場運営の改善を図れます。



VisualCheckEye
(ビジュアルチェックアイ) 販売

タイテックが、製造現場での作業者の力量やバラつきで発生するヒューマンエラーによるの不具合流出を防ぐため、カメラ撮像の画像処理で検査基準を数値化して安定した良否判定を行う、作業支援システム「VisualCheckEye (ビジュアルチェックアイ)」の販売を開始しました。



新開発 4波長帯プリズム
分光カメラ発売

ブルービジョンが、食品やリサイクル品、印刷物などを検査選別する用途で利用できる、新規開発のラインセンサ用4波長帯大型プリズム搭載の産業用ラインスキャンカメラ2機種を発売しました。



トピックス : 医療市場の取り組み

国内事業

株式会社TAOS研究所と業務提携

2020年9月7日、中日諏訪オプト電子が、株式会社TAOS研究所と業務提携いたしました。TAOS研究所がもつカオス理論を中心とした健康状態予測技術と当社がこれまで培ってきた医療関連のセンサ技術を融合し、医療・介護にて新たに製品展開を行い、医療分野での事業拡大を目指します。

 中日諏訪オプト電子



株式会社TAOS研究所

睡眠見守りシステム 『みまもり〜ふ』の発売

株式会社中日諏訪オプト電子が、介護施設・医療機関向けに、要介護者の快適な環境を提供し、かつ介護者の業務軽減を目指した睡眠見守りシステムに、新たな機能を追加した『みまもり〜ふ』製品型式：CS-2000 を発売しました。



IR担当窓口

- 部署：テクノホライゾン株式会社
- 役職：経営企画部長
- 氏名：加藤 靖博
- 電話：052-823-8551
- FAX：052-823-8560
- E-mail： info@th-grp.jp

将来見通しに関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保障を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。また、業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。